

平成16年7月12日(月) AM1=55 第2子=女 出産 3600g

~康乃先生と出会って~

初めに見学のためTelした時の第1印象は(声でか...)「やさしい声をした人だなぁ」でした。そして見学に行った時 穏やかな声と話し方とは、反対に自然分娩に打てる熱いさに「ここなら安心!」と思いました。でもその時は、まだ「自然に生む」ということを理解しきれていなかったと思います。

診察を重ね、先生の話を聞くたびに自然分娩の事や良さがわかり、きた気がします。

~陣痛から出産まで~

私<sup>2</sup>産まれないかと思っていて私は、夕食後、夫と娘の3人で田島へ...  
7<sup>2</sup>頃から家へ帰る車の中で お腹がほり、少し収縮ある感じが、(この時5分間隔)家に着き、痛みが増していくが、前駆陣痛かとも思っ様子を見る。が歩いても痛くなってきたので夫に「きたかも?」と言うと、「あれ、遅れるんじゃないの?」と夫。シャワーや入院準備を始め、0:03に先生へTel、症状を伝えると「内診してみようね。気をつけていらして」とのこと。夫が準備している間ソファの上で陣痛と闘う。車の中では、2~3分間隔で痛みが押し寄せ、夫がずらとお腹をさす、ていてくれた。これも気持ち良かった。1:00頃到着し、そのまま分娩台へ。内診すると、子宮口は5cm「あ〜あと5cmもあるんでよ〜」とつい口にててしまふ。痛くて「先生〜先生〜」という私に、先生は腰をさす、てくれる。あのちょうど良い力加減、これも気持ち良かった。「魔法の手」かと思いました。「痛い!」と叫んでいる私に先生は、「痛いわねー、この痛みつらいのよ〜」とやさしい声で答えてくれ、8cm開き「あと2cmもあるよ〜」と、思っていると「もう少したからね」と言ってくれる。その言葉(声)に落ちつき、安心する私。そこにすぐ陣痛はやってきて、前の陣痛が終わらないうちに次の陣痛が! それをくり返しているうちにいきみたくなりその10分後、出産。赤ちゃんの大きな泣き声が聞こえ、ホッと安心する。先生が私のお腹の上に赤ちゃんをのせてくれる。体は紫色、この良い体温なんともいえない感覚だった。へその緒を夫に切ってもらおうと思ったが、長女が大泣きで切れず... ちよと残念も その後胎盤を見せてもらった先生は、「赤ちゃんは、ここから出てくるのよ」と教えてくれた





胎盤サニ、今まで赤ちゃんを育て守ってくれて ありがとう。

部屋に行くと夫、長女、夫の両親がいて「おつかひ様」と言ってくれ、  
只々うれしかった。長女は赤ちゃんに「よしよし」とお腹をトントンしていた  
とても興奮しているようで、そのあと私の所へ来て「ママ いたいたいたい？」  
と自分のおなかをおさえていた。

自分では、もっと長くなると思っていたので 陣痛から4時間と入産し

～ お礼 ～

妊娠中は、いろいろばかりでしたが、出産して久しぶりにいかに  
和らいた「感じ」がします。長女の子守りをしてくれた 義母さん、義父さん  
両親。一生懸命留守番をしていたであろう長女。そして、なかなかに子守り  
に奮闘していたであろう 愛いタナ様。 本当にありがとう。

最後に 康乃先生、干ヨさん 夜中の出産でお世話かけました。

先生には、毎日おいしい食事のおかげで赤ちゃんに良いおっぱいをあげる  
ことができました（献立、食材、切り方、味付け、色どり、器と、とても  
勉強になりました）。先生の「おっぱいマッサージ」とても気持ち良かったです  
そして干ヨさん、部屋の清掃に 淋浴など色々ありがとうございました  
干ヨさんの淋浴で安心している我が子を見て「私大丈夫かな？」と  
と不安になりましたが、がんばります！

本当にありがとうございました。これからも「自然に産むこと」の良さを  
皆様には教えていらしてくださいね。

H16.7.16(金) 五+嵐